

古い話になりますが、毎年、春と言えば学会のシーズンでした。当時の学会発表はスライドが主流。スライドと言っても、カラースライドではなく、文字や図表を白黒印刷したものを撮影して作るブルースライドで、ブルーの背景に、文字や図表部分が白抜きされたものでした。写真だけであればカラースライドにしていたのですが、殆どがブルースライドでした。学会発表の1週間くらい前には、必ず研究室全体で予行演習を行い、その場で発表やスライド内容のチェック、想定される質疑応答について練習を行いました。学会発表の2~3ヶ月前には、講演の申込みと、発表内容の要旨を提出しなくては行けませんので、それまでには、ほぼ内容は固まっているのですが、場合によっては、結果が出る前提で申し込んでいた場合もあり、最後まで気が抜けませんでした。発表で使用するスライドは、予行演習までに作成しないといけないのですが、今と違って、A4で印刷した原稿を研究室の近くの写真屋に持って行き、スライドに加工してもらうのですが、仕上がるのに早くても2日くらいかかりましたので、実験結果がギリギリまで出ないと、かなり焦ったものでした。そのスライド原稿にしても、図表はロットリングを使い手書きで作成するのが普通でした。文字は専用のテンプレートを使うのですが、慣れないとインクを引きずってしまい、最初からやり直しながらというのがよくありました。本当に無駄な時間を多く費やしたものです。その後は、ワープロ（シャープの「書院」とか）を使って文字を印刷し、手書きした図表の下に切り貼りしてコピーし、貼り付けた部分の影をホワイトで消したものがスライド原稿になっていました。後半は、NEC-PC98の『一太郎』や『花子』を使っていましたが、文字フォントも少なく、見栄えのしない原稿しか作れませんでした。ですから、研究室にMacintosh-SEが来た時はかなり衝撃的でした。だいたい、論文やスライド原稿は英語で作るのですが、Macintoshはフォントの数が豊富で、サイズも自由に変更できたので、Macintoshが出現してから、学会発表のスライド作りも論文作成も飛躍的に楽になり、クオリティもアップしました。当時よく使用していたソフトは、マックライトII、CA-Cricket Graph III、Illustrator 1.6、Photoshop 1.0、PageMaker 1.0、MacroMind Director 1.0などで、イラレやPhotoshopは、今もこのadtain原稿を作成するのに使っています。今でこそ、Windowsばかり使用していますが、当時、主に医学系・歯学系・生化学系の研究者は、皆Macintoshを愛用していました。Macintosh-SEでも十分感動していましたが、その後に研究室で使用していたMacintosh-IIfx（CPU:40MHz、約180万円）は非常に早く感じました。自宅ではMacintosh-IIci（CPU:25MHz、約150万円）を使用していましたが、次々とアップグレードして行くので、その度にお金もかかりました。自宅のMacintosh-IIciをQuadra700（CPU:25MHz）にバージョンアップするキットが50万円もした。今考えると、Macintoshだけでも5台以上は購入していましたので、車を買ってしまうくらいの出費をしていましたね・・・あれから30年、プレゼンの仕方もすっかり様変わり。今は普通にその場で修正可能でもんね。無駄が無いというか、楽な時代になりました！最初に購入したノートPC（PowerBook180c）1台で、下の写真の全ての商品を5セットは購入出来ますから、信じられないくらい安価にもなりました。

**①EZCast Pro**  
WiFi環境がある場所では、全てのOS端末を、そのままテレビやモニターにミラーリングで映せます。

**②Diginnos Stick DG-STK1B**  
(スティック型パソコン Windows 10、CPU:クアッドコア/1.33GHz)  
WiFi環境が無い場所でのプレゼンには、直接モニターに接続するとモニターがPCに早変わり。Bluetoothで接続しているワイヤレスキーボード③で操作。

**③Bluetooth ワイヤレスキーボード mini**

**④YOGA BOOK with Windows**  
(CPU:Atom x5-Z8550(1.44GHz))  
画面上に手書きの内容を表示したり、ペン入力でのノートを保存することが出来ます。ライトアップキーボードは使い慣れないと早打ち出来ません。ディスプレイ部の厚みは4mmで、全体でもほぼスマホ並みの厚み。

**⑤パワポ操作用 フィンガープレゼンター ELA-FP1**  
プレゼン中、PCを直接操作することなしに「ページ送り・戻し」が可能。指や指し棒にはめて使います。

**⑥各種変換アダプター**  
(HDMI⇄VGA⇄D-Sub⇄microHDMI)  
以前は、5mくらいのケーブルを常に持ち参していましたが、最近では完全に無線で対応。いざという時の保険で所持。

©北海道新幹線「はやぶさ24号」E5/H5系9号車内

T O M O K O O ' S R E C O M M E N D

4月にリリースされた新譜をご紹介します。今ロンドンで話題になっているバンド「Formation (フォーメーション)」のデビューアルバム『Look at the Powerful People』です。両親の影響で、様々な音楽が身近にある環境で育った双子の兄弟ウィル・リットソンとマット・リットソンを中心に、レコード店で働いていたジョニー・タムズ、オーケストラやジャズに精通しているカイ・アキンデ-ヒュンメル、そしてジョニーとスタジオをシェアしていたサシュ・ルイスの5人により結成。興味津々で聞いてみたら、うむ。噂どおりのKASABIANサウンド。KASABIANの強靱なグルーヴはそのままに、パーカッションとシンセの軽いダンス・ポップ感、フレンドリー・ファイアーズやLCDサウンドシステムなどを彷彿させる良い意味で良い所取りでカッコいいバンド。重厚さと軽快さが絶妙にミックスされていて、少し漂う哀愁感も2000年代のあの楽しかったロックンロールリバイバルムーブメントを思い出しました。「A Friend」は今夏のダンス・アンセムになるようなので、今から聞きまくりましょう◎

ご意見・ご感想は [adtain@adproject.co.jp](mailto:adtain@adproject.co.jp) まで メールでお寄せください。  
発行：株式会社エーディープロジェクト 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-27-4 [www.adproject.co.jp](http://www.adproject.co.jp)

皆様の いいね！をお待ちしております。

facebook adproject  検索

もしくは、<https://www.facebook.com/adproject.japan>

adproject 公式 facebook を check adproject がお届けするエンターテイメント情報を随時UP!!

2017 vol.060 5 Legend

加減乗除

ゼネラルプロデューサー 檜垣 俊幸

世界平和が怪しくなってきた今日この頃であるが、人類の愚かさを痛感するのは私だけであろうか？卑怯さや、狡かさや、暴力的な利益追求や秩序の瓦解が行われています。子供達に言い訳のつかない不条理なこの状態は、今日まで我々が学び目指して来たものは何だろうか？という不安と動揺に襲われます。戦後の復興は、これで良かったのかと、根源的な不安にさえ苛まれます。自分が生きるためには他を排除しなければならない「弱肉強食」の飢餓動物の生き方しかないのだろうか。この地球の子供達の未来の世紀に不安が漲る世紀の始まりであろうか？人類の知恵の無さにびっくりする悪魔の世紀、その無能さに怒りすら覚えます。同時に統治者無きこの星には神しかいない事が不幸の果てなのかもしれない。

2017年5月

■この星に足りないもの・・・  
そもそも、自然とは無計画なものである。また、明日は存在しないものである。人間が考えた「質と量」の中で刻んだ「定数の論理」で組み立てるものが「明日」である。そんな中であって、未来を推し量る論理を考え、推し量り、不条理な虚しさ振り返るべきである。それは無限大の不条理を生み、恐れ多い結果を生み出すばかりである。答えの異なる「加減乗除」を繰り返して混沌の世界に入るだけである。それは、進んでいるのか、戻っているのかわからず、右か左か、上か下かすら判らない自覚の世界を彷徨っているであろう。自覚の無い世界を彷徨う為の礎（いしずえ）を欲しがると故に「神」に目覚め、神代を妄想し、「天地神明」に鼓舞し、信じる曖昧な自覚を促すのであろう。故に、自覚のない、自分の立脚点すら見えない「流転地獄の繰り返し」を重ねているのであろう。忘れる事から始める事が大切な自覚認識を忘れてはならない。負の加減乗除も、しっかりとした自覚への道のりである。戦争を忘れる事が平和への正しい道のりかもしれない。自覚のない世界の自覚は、忘れる事から訪れるかもしれない。それにはポジティブな妄想が起点になるかも知れない。

■もうひとつの星の物語  
妄想力の足りない星、地球にはいくつもの悪魔が住んでいる。本来、悪魔は天使の化身と

EDGE Positive mind

adtain

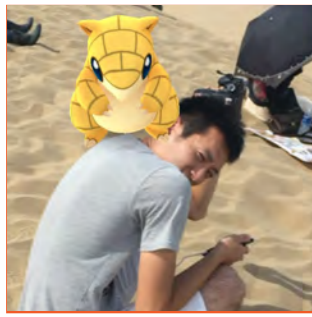
adproject-entertain newspaper

モデル：Alyona:175cm B:80 W:62 H:93  
事務所：ARTRICK ENTERTAINMENT (アートリック) <http://artrick.com>

adtainとは、adproject と entertain が融合した「おもてなし」のトピックス誌

も言われ潜んでいるものである。妄想のできない者に、真の夢や、思いやりは無いと言われる。人は妄想の中に理想や夢を求め、そのあるべき姿を求めて理想を築き上げます。そんな理想無き社会に幸せは生まれません。戦争をする者には、ありえない正統論理を語り始めます。自己保身は一方的な不幸の論理です。この星を戦争と言う不幸の論理に向かわせたのは、楽しくない事を忘れられない邪悪な星の無策で不幸せ星の人々です。彼らは、戦争を忘れる事の出来ない病気に病んでる人々と意識するべきです。言い換えれば、病魔に侵された人々と言えます。即ち病気の事です。大切な事は、これらの病魔に効くワクチンの開発を誰もしていない事です。病気は優しく笑顔で治しましょう。ポジティブ病理学では、これらの病原菌の研究から行っています。忘れる事が大切な治療もあります。戦う事を忘れ知らない事の処方箋を大切にした星もあります。マスコミも、これらの視点からその役割を考えてみる、もう一つの視点研究を次世代の若者に求めます。忘却の世代は、楽しい発想だけが頼りなのです。

■笑いが星を支配すれば・・・  
「ポジティブにすれば、それだけ、幸せが増える」と言い切ってみる事は勇気が湧いて来るものです。「戦争をする」事は無駄な事ですと言いつける事は、損得の問題では無く貴重な発言であると思えます。確かに三秒後には笑いが込み上げてきます。この笑いが優しく微笑みに変わる時、ポジティブな自分と優しい思考回路が可動し始めます。この星は笑いのエネルギーで動き始めます。笑いながら考える事も大切な思考方法です。それが故に、気づく思考方法を発見する事があります。それが故に、信じられる発想にたどり着く事もあります。諦めず、発想をポジティブに変えるだけで、幸せにたどり着くこともあります。幸せの観点から希望を見つめるだけでいいのです。この星を「幸せ星」と呼ぶことが一番早いのかも知れません。視点を変え、思い込み、忘れる事が、意外と手短手法なのかも知れません。忘れ上手な明るい星がこの星の姿でありたいものです。それが老人パワーであろう。



阪本 崇裕

- Event： 埼玉県民が埼玉を観光しました
- Date： 2017/05/08 ※私の誕生日です
- Place： 埼玉県秩父市周辺

今回は、生まれも育ちも埼玉県の私が、埼玉県秩父周辺を観光してきましたので少し紹介したいと思います。昔はあまり知られていなかった秩父ですが、最近では、行列のできる人気店、天然の水で作られる「阿佐美冷蔵のかき氷」を求め、多くの観光客が秩父へ足を運ぶようになったと思います。阿佐美冷蔵のかき氷は、TV「マツコの知らない世界」でも取り上げられ、平日休日問わず連日行列となっています。繁忙期では3時間待ちもしばしばあるようです。天然氷を使っているのかき氷特有の頭がキーンとなることなくと言われておりますが、私はキーンとなりましたw 秩父の魅力はまだたくさんあります。次にご紹介するのは、ダイナミックな自然のスクリーンを眺めながら荒川を豪快にすべるライン下りです。国の特別天然記念物に指定されている長瀬の岩畳をゆっくり堪能しながら、季節に合わせて大自然を楽しむことができます(ちなみに冬はこたつ付きの船があるみたいです)。他にも、ラフティングやカヌーが体験でき、その日の水量によって川の流れるのが違うので毎日違った楽しみ方ができます。私が昨年ラフティングをした日は、台風が過ぎた翌日だったため、川の流れるのが早くて水量が多かったので途中ボートが転覆し、乗客全員が流されるといったハプニングもありましたが、すぐに周りのボートが助けに来てくれて無事帰ってこれることができました。一度流されてみたいという方には、台風の翌日はオススメかもしれませんw

その他にも、秩父周辺には自然を楽しめるコンテンツが盛りだくさん！「羊山公園の芝桜」「長瀬渓谷」「三十槌の氷柱」などなど、季節ごとに楽しみ方が変わるのも魅力的です。仕事で疲れを感じている方や、羽を伸ばしたいと思っいる方々！是非、秩父へ足を運んでみてはいかがでしょうか。



阿佐美冷蔵のかき氷



荒川ラフティング



荒川ライン下り



PRODUCER：須田 潤一

- Place： 新宿の老舗スペイン料理『カサベリヤ』



皆様お疲れ様です！！GWも終わり2017年も残り半分になりますよ～！！大丈夫ですか？ね・・・。早いですね・・・。いい事か、悪い事か・・・過ぎ去る時間の早さにビックリしています。さて、代々木に越して来て結構立ちますが、新宿が近いので食べるとこ、飲むとこ、遊ぶとこは沢山あるのですが、良い店ってあまりないですか？今回は、最近ではまった新宿にあるお店を紹介したいと思います。そのお店は、1972年創業の老舗スペイン料理屋さん『カサベリヤ』です。和食メインの僕にとって、スペイン料理って殆ど興味なかったのですが、ここに来て価値観が変わりました！！場所は、新宿から歌舞伎町を抜けて職安通り沿いの古い雑居ビルの2階にあります。店内は、昭和感がある超レトロな空間。今回は僕が必ず頼む料理を紹介します！！

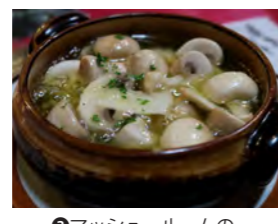
- ①カナッペハムとカナッペサーモン：ハムも美味しいですがなんとこれもサーモン！ルイベ状の冷たいサーモンが香ばしアツアツのトーストにのっています！すぐに食べることを必須です！
- ②ムール貝のカサベリヤ風：これは、ポイルしたムール貝に2種類のソースで味付けされたおつまみ。お店の名前がついてるのでオリジナルなのかな？これも、最高です！
- ③マッシュルームのオリーブ油焼き：オリーブオイルを吸った熱々のマッシュルーム、たまりませんね。パンにのせたり、パンをオリーブオイルにつけたりして、楽しみました。必ず頼むおつまみ3品が上記3つ！これにもう1品をいつも悩みます。
- ④スミ入りパエージャ：イカスミのパエリアですね！！普通のパエリアもありますが僕はこっちです！！魚介の香りとお焦げの香りが一緒になり最高です。まずは最初に魚介類と米を普通に食べます。パエリアの器が冷めたところで店員さんがお焦げを削り取ってくれます！これが香ばしくて最高です！！飲み物はトーストというワイン。牛のマスコットが付いたワインで、僕は赤を基本頼みます。そして最後に、デザートのためのマルガリータというカクテルを頼みます。このマルガリータ最高！！お店のソムリエの方のオリジナルです。と、まあ行ってみたいことには、中々伝わらないと思うのでぜひ、足を運んでください。お店もアットホームでとても素敵な方々ばかりです。今回は新宿の老舗居酒屋を紹介いたします！



①カナッペハムとカナッペサーモン



②ムール貝のカサベリヤ風



③マッシュルームのオリーブ油焼き



④スミ入りパエージャ

# Project 3.

Producers' column

## 牛から水素を作る？

EXECUTIVE PRODUCER：松延 智明

クリーンエネルギーとして注目される「水素」。普通のクルマではガソリンを燃焼して走るためにCO<sub>2</sub>が排出されてしまいますが、水素をエネルギーとする燃料電池自動車（FCV）で排出されるのは、水と酸素なんです。いかにも環境に良さそうなエネルギー…が、しかし。現状では、水素を製造する過程でCO<sub>2</sub>を排出してしまうという状態なのだそう。それで今回のお話「牛から水素を作る」。なるべくCO<sub>2</sub>を排出せずに水素を作ろうとする様々な取り組みがある中で、おもしろい実証実験が行われています。牧場では、毎日、膨大な量の家畜のふん尿が排出されており、当然、廃棄処理が必要になります。この実験では、家畜ふん尿をただ廃棄処理するのではなく、特殊な設備を使ってふん尿からバイオガスを取り出し、そのバイオガスを利用して水素を精製、さらに地域で使う燃料電池車（クルマのほか、フォークリフトなども検討されている）などで活用（地産地消）しようというものなんです。ある計算では、牛1頭で年間10,000kmのFCVを走行させられると言われており、技術の確立が期待されています。「馬力」ならぬ「牛力」が未来の社会を変える可能性を秘めているんですね。

PRESIDENT： 檜垣 俊吾

## 車検ってどうしてますか？

日本の車検制度はいつも面倒と思い、他の先進国を調べてみると… まず、ドイツの車検制度に関しては日本と同じで、最初の車検のみが購入から3年後、その後は2年毎にある。また、フランスも同じように2年サイクルで車検があるが、購入してから最初の車検が4年後となっている。イギリスでは新車購入から3年後に初回の車検を通した後は、その後、毎年車検を受ける制度となっている。さらに、アメリカのニューヨーク州に至っては、車を買って1年後から、毎年車検を受けることが義務付けられている。このように、検査のサイクルに違いはあるものの、先進国のほとんどは何らかの形で法で定められた定期的な車の点検というものが存在しており、日本も特別高く厳しいわけでもない。実際、検査費用は大したことないが、実はその他諸々の費用が積み重なって高額になっている。そして一番の問題は、「自分で検査に出しにくい仕組み」だということ。検査場が空いている時間は平日の昼間のみで、会社を休めない人にとっては無理な時間帯。そのため、多くの人は自動車ディーラーや車検代行業者に手数料を支払って車検を代行してもらおうことになる。比較的安い手数料でサービスを行っている業者も増えてきているが、それでも車検と言えば最低でも10万円はかかるという風に捉えられている。そんな中、先日バイクのユーザー車検へ行ってきた。2年ぶりということもあり、忘れかけている記憶をたどりながらだったが、やはりわざとと思うほど、説明や誘導看板がないことを改めて実感。自分で車検を通せば、2万円もしない。販売店に頼むとクルマと同じくらい10万円前後かかる。これを商売にされている販売店さんにはお叱りを受けるかもしれませんが、クルマやバイクを普及させるためにも、ココをどうにかするべき！と思う。

気ままにDIY

## 前山 椋 (第3プロジェクト)

部屋は狭いが物は多い。部屋は広く楽しく使いたい！  
 こんにちば。前山です。部屋に収納スペースが無い事が悩みです。  
 家具を見に行っても、丁度いいサイズの物はなかなか存在してくれせん…

だったら作ってしまえと。再発したマイDIYブーム。  
 先日サイドテーブルを作ったのですが、削ってニス塗って…  
 一見メンドクサイですが、やっぱり手作りはいいですね。  
 そして現在製作中がテレビ棚。テレビの上の空白スペースがどうも勿体ない…  
 棚を増設～と思っていたら、こんな便利なアイテムを見つけました。  
 「ディアウォール」 ツーパイプの木を突っ込むだけで  
 木材が簡単に突っ張り棒になり基礎になってくれます！  
 賃貸でも気にならないビスは打ち放題！  
 DIYにチャレンジする際は、是非使ってみてください！

こんな棚が簡単に作れます！↑

# Project 2.



田中 勇氣

- Event： 其二 コースデビューの段！
- Date： 平成29年4月
- Place： 千葉県

先日、ついに念願のゴルフコース・デビューを果たしました田中勇氣です。私の地元、千葉県の大自然に囲まれて身も心も清らかになりました。ちなみに、スコアは「196」でした(笑)。最近はゴルフにはまってしまい、ソコソコと練習しています。

ところで、皆様は千葉県と言うとどこが思い浮かぶでしょうか？おそらく一番に浮かぶのは『東京ディズニーランド』かだと思います。「いやいや、名前が東京なのだから東京都にあるんじゃないの？」とお思いの方もいるかもしれませんが。しかし住所は千葉県です。ディズニーランドだけではありません。『らぼーと TOKYO - BAY』『東京ドイツ村』『東京歯科大学』etc... 全部、東京を名乗ります。不思議です。なぜこのようになったかは諸説あるようですが、神奈川県や埼玉県に「東京」を名乗る施設が無いことから、下記の説が有力とされています。

「英語だと chiba (チーバ)」説  
 千葉をローマ字で書くと「chiba」になります。しかしこの「chiba」は英語で(チーバ) マリファナを意味する単語なのですが、これらの法律では、「実際のものよりも著しく優良であると示す表示」であって「不当に顧客を誘引し、一般消費者による自主的かつ合理的な選択を阻害するおそれがある」場合に問題になるそうです。つまり、「東京って名前なのに本当は千葉県なの?! だったら行かなかったよ～」という人が多数いたらダメですが、まずいないだろうという判断により、違法とならないようです。ちなみに、千葉県にはマスコットキャラクターの「チーバくん」がいますが、健全なキャラクターです(笑)。

「法律上問題は無いの？」  
 関連する法律は、不当景品類及び不当表示防止法と不正競争防止法なのですが、これらの法律では、「実際のものよりも著しく優良であると示す表示」であって「不当に顧客を誘引し、一般消費者による自主的かつ合理的な選択を阻害するおそれがある」場合に問題になるそうです。つまり、「東京って名前なのに本当は千葉県なの?! だったら行かなかったよ～」という人が多数いたらダメですが、まずいないだろうという判断により、違法とならないようです。ちなみに、千葉県にはマスコットキャラクターの「チーバくん」がいますが、健全なキャラクターです(笑)。

# Project 4.



PRODUCER：岩下 信而

- Event： 石坂浩二のウディ・アレン化を望む
- Date： 2017年5月
- Place： いぎビッグサイトへ



倉本聰の「やすらぎの郷」は、石坂浩二が、浅丘ルリ子ら共演者たちの無理難題(ムチャ振り)を断り切れず右往左往する。～ゴルフの予定は必ず雨、ホームパーティの準備をしていると上の階からクレーム、速達で送ったラブレターの返信は、「さようなら」しかも料金不足…あらゆる事がぼくに起きる～という名曲「Everything Happens to Me」さながらで可笑しい。個人的にはウディ・アレンのように、若い娘に夢中になり、翻弄されるようなシュールな展開が見たい。(長澤まさみのカメオ出演どうですか、東宝芸能)

出演者では、亡き妻として回想シーンに登場する風吹ジュンがチャーミング。ぼくが十代の頃、サイダーのCMで大瀧詠一、山下達郎の小粋なサウンドに乗せ、坂道をブレーキが効かなくなった自転車で降りてくる彼女は、センセーショナルだった。そういえば、あべ先生やモモちゃんが、こまわり君をサディスティックに責める中、唯一優しく接していたのはジュンちゃんだった。

中島みゆきの主題歌も「地上の星」「糸」に続いてカラオケ族のハートを鷲掴み間違いない。村井邦彦作の「虹と雪のパレード」以来のマーチが似合うタイアップソング。小中高の音楽教師による争奪戦でスコア(譜面)が売り切れ続出とか。あ、これは嘘です。

このドラマを、「テレビ界を批判した作品」という金太郎飴のようなマスメディアの記事。倉本さんがアイロニーと愛情でテレビジョンや役者たちを見つめてきた作家であることを知らない連中かぁ(落胆)。かたや主要人物たちがチェーンソーであるというシチュエーションに触れないのは、大スポンサーを刺激しないよう戒厳令でも敷かれているのではと勘繰りたくなる。(これは個人の意見です) 締めは黒いしんちゃん登場でした、では、次号、Ciao!!

波多 純子

土井 空朗

カフェ・喫茶ショー2017『ラッキーコーヒーマシンプース』  
 (6月6日～8日/東京ビッグサイト西ホール)  
 コンビニなどで、気軽に楽しめる全自動コーヒーの普及により、  
 コーヒーはさらに身近な存在になりました。そんなコーヒーの最先端を紹介します。Espresso Diva 波多純子、ハンド・ドリップ世界一土井克郎の至福のコーヒーをどうぞ。